開催挨拶

災害と環境を考慮した安寧の都市に関する論点

谷口栄一　安寧の都市ユニット長
京都大学大学院工学研究科教授

安寧の都市ユニットは2010年4月に始まり、今年で2年めになります。今回のシンポジウムは、大震災の関係もあって、「災害と環境から都市の安寧を構想する」というテーマで開催させていただきます。本日は、名古屋大学の林良嗣先生、元衆議院議員の武村正義先生にゲストとして特別講演をお願いしてございます。

簡単ではございますが、私たちの問題意識と、今回のシンポジウムの論点を、少しお話しさせていただきます。

東日本大震災の被災地はがれきの山になってしまいました。このことから、われわれはどのように安心・安全、健康、快適なまちを構想するかということが、本日の第一部の論点になると思います。

いっぽう、日本は人口はどんどん減ることが予想されています［資料1］。ところが、人口が減るなかで高齢者だけは増えます［資料2］。65歳以上の人口が、これから15年くらいのあいだに、絶対数として700万くらい増えます。これがもう一つの論点になります。この700万人のプレッシャーはたいへん大きなもので、これにどう対応するかを、安寧の都市ユニットでは問題点の一つとして考えております。

人口減少とともに人口が偏在する、都市部に集中するということがございます。それに、医療、介護、保険、福祉の需給のギャップが生じます。どんどん増える需要に、はたして供給が追いつくかどうかという問題です。工学の視点からは、インフラの維持・管理が困難になるのではないかという問題もあります。さらには、国際的な競争力の低下、あるいは災害時の対応に支障をきたすのではないかなどが課題となるのではないかと考えております。

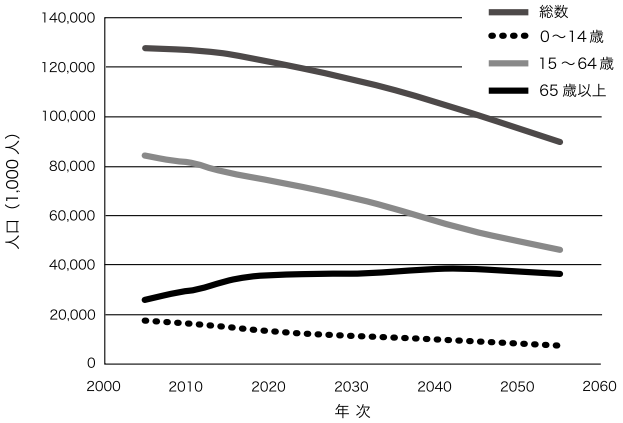
解決策はいろいろあります。本日のシンポジウムでもいろいろなご意見やご提案が出てくると思います。たとえばコンパクト・シティ。きょうは林良嗣先生にとくにこの点についてたっぷりとご教示いただけると思っております。電力の不足もわれわれに突きつけられている課題です。省エネ型の都市をどう実現するのか。あるいは、コミュニティにおいてお年寄りから子どもまでが生き生きと暮らせる環境はどうつくるか。公共交通をどう整備するのか。歩行を基本にする健康の増進、民間と公の連携、このような対応を組み合わせることで、安寧の都市というものをうまく構想できないかと考えております。

じつは、「安寧の都市」に決まった定義というものはございません。［資料3］は私が考えている一つの案です。「生き生きと活動できるような都市」というのが最大の眼目です。これを達成する前提として、自然災害やテロ、犯罪、新型の感染症などのリスクの軽減や互いに助けあうコミュニティの気風、個人の自立の確保、市民的社会生活への自由な参加なども大事であろうと考えております。

医学系では、安寧の都市ユニットの立ち上げのときにかつて笹田昌孝先生と議論したのですが、笹田先生は、都市で自然、環境、文化等に考慮しながら三世代が自立して支えあうような生き生きと暮らせるまちづくりを提案されています。

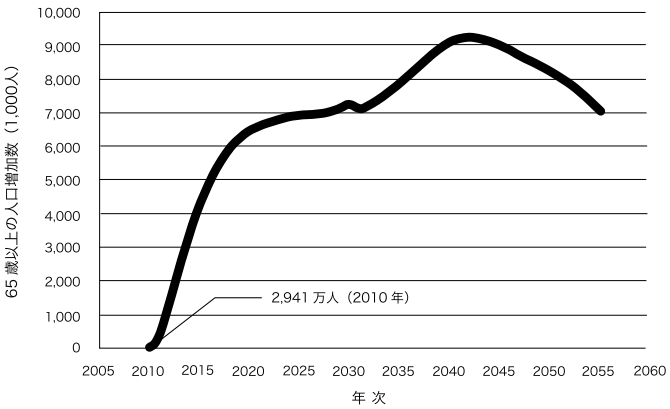
［資料4］は山形県酒田市のまちづくりの例です。病院や療養施設を郊外に出すのではなく、商業施設などとの複合施設として、都心部で再開発をしようという動きです。よく知られ

▶資料1　日本の人口の推移



〈人口問題研究所ホームページ資料をもとに作成〉

▶資料2　2010年を基準とした65歳以上の人口増加数



〈人口問題研究所ホームページ資料をもとに作成〉

第2回　安寧の都市ユニット　シンポジウム「災害と環境から安寧の都市を構想する」

日時：2011年7月23日(土) 13時30分～17時00分
場所：京都大学百周年時計台記念館　百周年記念ホール

■第1部　「震災から都市の復興を考える」　13時30分～14時45分

開催挨拶「災害と環境を考慮した安寧の都市に関する論点」
…… 谷口栄一（安寧の都市ユニット長、京都大学大学院工学研究科教授）
「ハード・ソフトによる防災と減災の適応範囲――東日本大震災の事例から」
…… 清野純史（京都大学大学院工学研究科教授）
「行政の視点から見た被災地対応」…… 古橋勝也（安寧の都市ユニット第一期履修生、京都府消防安全課主任）

■第2部　「環境から都市の安寧を考える」　15時～17時

「日本が生活の豊かさを築くラストチャンス――クオリティ・ストック&スマート・シュリンク」
…… 林　良嗣（名古屋大学大学院環境学研究科教授）
「きらめく安寧の都市よ」…… 武村正義（元八日市市長、元衆議院議員）
討論　　林良嗣 × 武村正義

た例として、富山市が路面電車（LRT）を導入したことで、高齢者の外出機会が少し増え、これにともなってライフスタイルも変わってきたという事例もございます[資料5]。

きょうのシンポジウムがどのような流れになるか楽しみにしておりますが、論点はいくつかあると思っております。

一つは、ずっと都市は効率化を中心にこれまで考えられてきたと思いますが、防災あるいは環境との両立をどのように考えるのか。二つめに、すでに超高齢社会に入っていますが、そのなかで公平性をどう考えるのか。公平性の定義は、100人いれば定義が100個あるといわれるくらい難しいのですが、このあたりも論点になると思います。

それから、交通については自動車依存から公共交通への転換が大きな流れになっていますが、この点についての議論が必要と思います。医学と工学の融合がこのユニットの一つの眼目になっていますが、それでは医療、介護、福祉と都市インフラの関係はどうあるべきか。それと最後になりますが、高度技術、高度情報システム等の技術をいかに活用するのか。このあたりが論点として浮かび上がってくれば、このシンポジウムはおもしろい、役に立つものになるのではないかと思っております。

最後までじっくりとお聞きいただいて、ともにお考えいただければ幸いでございます。

簡単でございますが、私のごあいさつとさせていただきます。

▶資料3　安寧の都市とは

安寧の都市（Liveable city）とは

安寧の都市とは、自然災害やテロ、犯罪、新型感染症などの**リスクの軽減**と災害時の素早い回復に対して十分な対応がなされ、経済的に維持できる適切な住宅、**お互いに助け合うコミュニティ**の気風とサービス、適切な教育、医療、介護、福祉、交通サービスがあり、これらの要素が混じり合って、**個人の自立**と住民の市民的社会生活への参加を容易にし、安心安全かつ健康で**生き生きと活動できる**ような都市である。

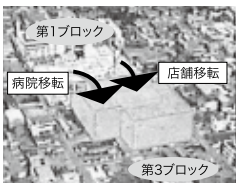
▶資料4　中心市街地の活性化と病院・商業施設・住宅などの複合施設（山形県酒田市）

酒田市の事例
- ２つの街区を一体とした再開発を実施し、病院の営業を継続しながら建て替え
- 中心市街地を活性化させる医療、福祉、商業、住宅等の機能を複合した一体的なまちづくりを効果的に実現

第一段階

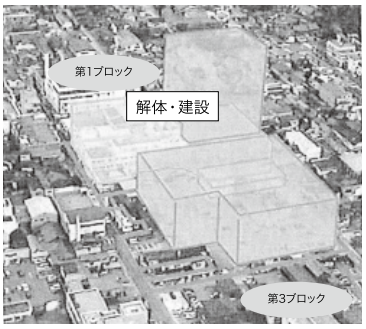
※第１ブロックにて営業の継続
第３ブロックで解体・建設工事

第二段階（新病院を建設・移転）



※第３ブロック竣工・第１ブロックから移転
第１ブロックで解体・建設工事

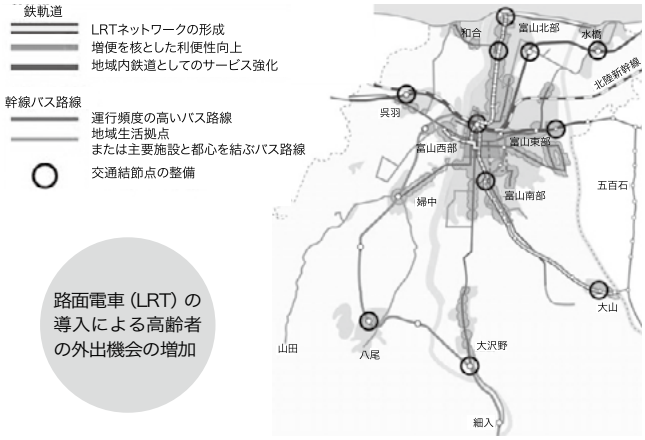
第三段階（旧病院の解体後、都市型住宅等を建設）



※第１ブロック竣工

〈内閣府資料をもとに作成〉

▶資料5　富山市の公共交通活性化計画



〈富山市資料をもとに作成〉